

## 2023 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

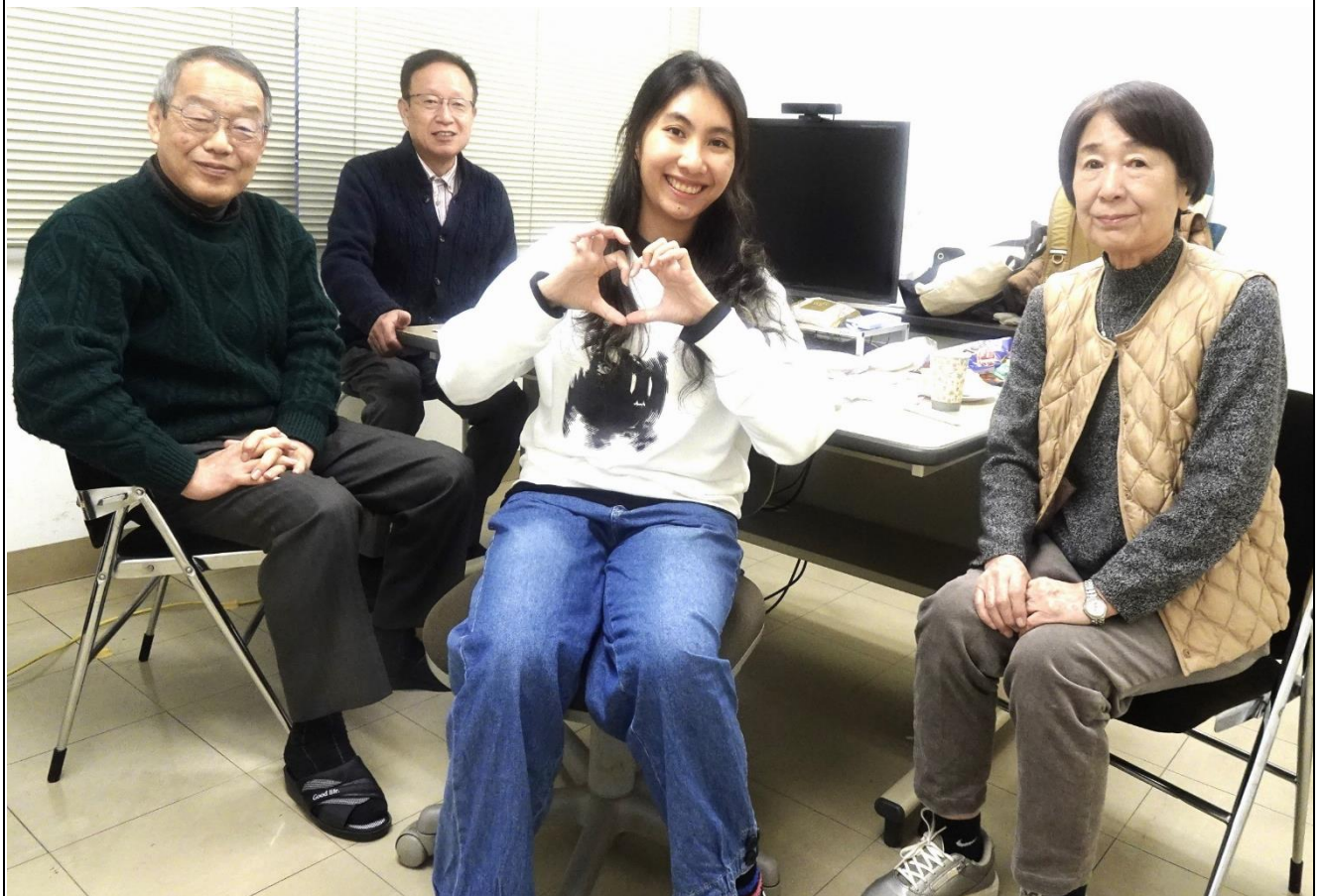
ふりがな	おんらいん まなびあい けんきゅうかい	
団体名	オンライン学び合い研究会	
代表者名	小山悦司	
連絡先	住所	岡山県倉敷市川西町 11-30
	TEL	090-4572-1271
	E-mail	koyama@kusa.ac.jp
	URL	
設立年（西暦）	2023 年	
助成活動名	外国人児童のための留学生によるオンライン学び合い事業の開発	
助成額	850,000 円	
活動内容	目的	<p><b>1. 背景</b> 文部科学省の調査によれば、全国で約 2 万人の外国人の子供が就学困難な状況にあり、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対する指導・支援体制の充実が強く求められている（文部科学省総合教育政策局国際教育課『外国人児童生徒等教育の現状と課題』2021 年 11 月）。</p> <p><b>2. 課題</b> 日本語指導が必要な外国人児童にとって母語ではない言葉で学校生活を送り、教育を受けることは簡単なことではなく、日本語の習得が十分でないために学校生活になじめない、授業についていけない、さらには不登校となる等の問題が発生しており、日本語能力が十分でない児童への支援は緊要な課題となっている。</p> <p><b>3. 目的</b> こうした課題を解決するために、本事業では「同じ母国の児童と留学生が兄弟姉妹のように母語を交えて日本語を学び合うことにより、相互に日本語能力の向上を図り、不安や悩みを抱える児童が安心して心を開いて学ぶことのできる機会を提供すること」を目的としている。</p> <p><b>4. 特長</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外国人児童と留学生が母語を交えながら日本語を学び合うことで日本語能力が相乗的に向上すること。</li> <li>2) 外国人（移民）の受け入れが進む中、誰ひとりとして取り残されない多文化共生社会の実現に貢献できること。</li> <li>3) GIGA スクール構想による小中学生の一人一台端末を活用して、オンラインで学び合う DX（デジタル・トランスフォーメーション）の可能性を秘めていること。</li> </ol>
	内容	<p><b>1. オンライン学び合い事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 準備期間：2023 年 4 月～6 月</li> <li>2) 実施期間：6 月～2024 年 3 月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火曜日 フィリピンの留学生と小学 1 年生 計 26 回</li> <li>・ 木曜日 ベトナムの留学生と小学 6 年生 計 25 回</li> <li>※ 毎回 14：45～16：45（留学生の準備と片付け含む）1 回は 30～45 分</li> </ul> </li> <li>3) 総括検証期間：1～3 月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の成果に関するヒアリング調査</li> </ul> </li> </ol> <p><b>2. 事業運営のための会議</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 準備会：計 5 回 <ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 回 3 月 17 日～ 第 5 回 5 月 25 日</li> </ul> </li> <li>2) 総会 6 月 1 日 18 時からオンライン開催</li> <li>3) 運営会議：計 24 回 <ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 回 6 月 8 日～ 第 24 回 3 月 26 日</li> </ul> </li> </ol>

	<p><b>3. オンライン学び合い研究会</b> 第1回 6月17日～ 第5回 2月24日 計5回</p> <p><b>1. 児童と留学生の満足度向上</b> 当初は不安と緊張があったが、母国語を交えることで通じ合うことができた。徐々に日本語能力が向上し学び合いに対する満足度が高まった(ヒアリングより)。</p> <p><b>2. オンラインのデメリットの低減:学び合い方法の工夫</b> 1) 「正解です。」と音声で伝えるよりも、即座に「○×プレート」で示す方が直感的で分かり易い。できるだけ絵カードなどの視覚情報を併用するよう心がけた。 2) 教材に関連した歌を一緒に歌う、動画教材で目先を変える、実際に手を動かして文字を書く、クイズなどで考える時間を設ける、などの工夫を行った。</p> <p><b>3. オンライン(ZOOM)の操作技能やトラブル対処法の習熟</b> 動画共有の仕方、適正なカメラアングルや照度、音量調節などの操作技能が向上した。また、「音声×、映像○」などと表示したトラブル対応カードを準備した。</p> <p><b>4. 学び合いの経験値の蓄積</b> 日本語能力を向上させるための教材選定、効果的な発問の仕方、コミュニケーションの技法などについて経験値を蓄積することができた(相互作用分析より)。</p> <p><b>5. 行政、学校、他団体との新たなつながり</b> 児童を募集するために、倉敷市教育委員会、倉敷市国際課、矢掛町教育委員会、総社市役所、岡山県国際交流協会などに足を運ぶことにより新たなつながりが生まれた。また、倉敷外語学院、NPO 法人メンターネットとの連携が進展した。</p>
<p>今後の課題 と対応策</p>	<p><b>1. 児童の事前情報収集</b> 日本語に不安を抱える児童に関する情報収集が困難であることが課題である。日本語に不安を抱えている児童の存在が顕在化してこない状況にある。2024年度にはWeb ページを作成して幅広い情報発信を行い、積極的な情報収集に努める対応策を検討している。</p> <p><b>2. 児童と留学生のマッチング</b> 児童の募集エリアを県内全域に広げるとか、留学生を倉敷外語学院以外の日本語学校や留学生別科、大学・大学院に拡大することも検討しなければならない。</p> <p><b>3. 留学生の日本語能力</b> 児童と学び合う際には、信頼感を得るために必要最低限のレベルをクリアしておく必要がある。今回の留学生二人は、人格的にも意欲の面でも期待以上であり児童の反応は大変良好であった。今後は、日本語能力が一定水準以上の優秀な留学生の安定的な確保が課題となる。</p> <p><b>4. テキストや教材の選定</b> 多種多様なテキストやDVD教材などを入手したが、それぞれ一長一短がある。文部科学省の日本語教材提供サイト「かすたねっと」の活用やWeb教材と紙教材のベストミックスを検討する必要がある。できればオリジナルなテキストや教材を作成していきたい。</p> <p><b>5. 時間帯や場所の検討</b> 小学校から自宅に帰るのは概ね16時前後となる。自宅の学習環境やWi-Fi環境が十分に整っていない場合もある。学校と連携して放課後の教室での補充学習としての学び合いが可能になれば、より多くの児童が有効に活用することができよう。</p> <p><b>6. 運営資金の確保</b> 寄付プラットフォーム、企業、団体等から寄付を集めることや、行政からの恒常的な助成金の確保が望まれる。そこで、団体としての信頼度を高めるために、NPO法人化を進める。</p>

ベトナムの留学生と小学6年生との学び合いの様子

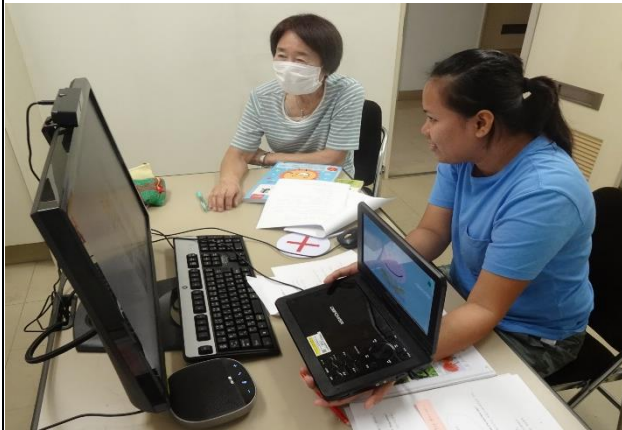


ベトナムの学び合い(計24回)を終えて



写真の提出

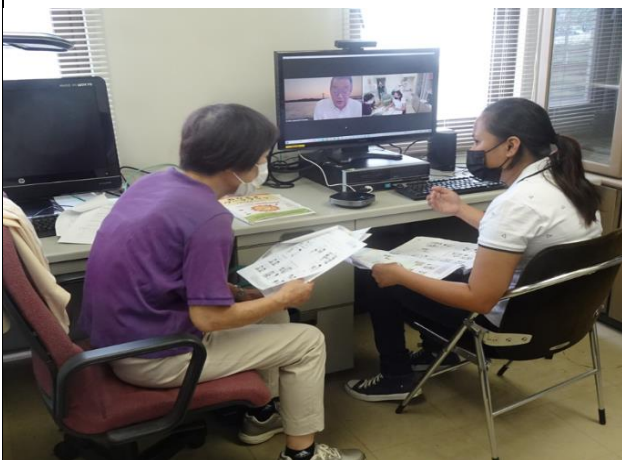
フィリピンの留学生と小学1年生との学び合い



対面でのリアルな学び合いも時には必要



学び合いのリハーサル



学び合いの画面(ベトナム)



教育コーディネータとの打ち合わせ



オンライン学び合い研究会の様子



外国につながりをもつ児童が母語ではない言葉で学校生活を送り、教育を受けることは容易なことではありません。日本語の習得が十分でないために学校生活になじめない、授業についていけない、さらには不登校になる等の問題が発生しています。

今回の事業は助成があったからこそ始動できました。背中を押していただき誠にありがとうございました。微力ではありますが日本語能力が十分でない児童への支援に取り組むことにより、岡山が外国人にとって暮らしやすい地域になればと強く願っています。